別19
4

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用

新板

もんかく

上

別19
4
京都書籍 林南川上 治

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4
ガラス使用

国立国会
27.6.-3
図書館
U 27977

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4
ガラス使用

かんまうなれまげしゆろう建立あるべしとて
雖くちうらくぐまいをくりんぎんして海へらまし
が宣がし山ぬんの御志よりおうぢうじどのへまいり
こまこはこうの御志んごんじ此ゆ稱つきごうの此くりん
ぎんよさいるそ以御ゆうがあまことゆんがくへくりん
じんちゆうを負うろうにこそよみあげ名れこゝろ是
卯月上ぎゆんのまゝなるに をそざくらちる事此
志ゝへさむうぞそゝに志ゝまゐう乃なれまゐゆき
へ御屋よちりしきて屋まゐはとゝぶ次むゝさ見ま
ぬまゝくさわゝ御ゆりふしは雲上のくりんがんかう
そ御ゝだなり 上らうゝちへ御らんじてさうゝく
なりあのほうし 坂日は海いまゐ御ゆうがまゝへしとの
御ぢゆう也そんがくさうしめされなふ雲上此くりん
ぎんかうとや筆筒さうんくごびは稱うとうまん

あそひそてうんまゐ遠いぐまゐ稱つきごうの此くりんぎん
そまゐをの負めよあらざやくりんぎんかうをとゞ
め御ゆうがあまことそんがくへ又くりんじんちやうを
負うろうふこそよみあげ乗まゐ上らうゝちへ御らん
じてさうゝくなりあのゆゆしをなひおせとの御ぢゆう
なりうけゝ海へ分と申て書侍七八人もしつまこゝろ
てもんがくをひ例ゝそ後日はまゐまゐ御ゆうがあ
屋しとのせんじまそはよかさ○てまゐるまゝこ
そさ例くまいなまゐいうぎいでよといふまゝにそく
びをゆいてをひいぐにもんがくこゝろよあさゐる
なまゐばいうふを志ゝがふわゆゑいづるいそ見いで
よといふまゝにくりんじんちゆうをひんだふて二つ三
例は宣例さ見 かしこへかたとなげまて 又と例
てひ例ゝそゝそんのあへぞ宣貴いぐ次もんがくゆ説

じそそ也くこまはなふまずぞいかゝらだ
いくあびそ也ちよしをこゝろいふべけまこゝろ夜の
うへ君ちぎよくをあらふかさしろそいとんなり
きらくものをあんずるにせんじ四れ二十八ぶ志也
屋くし君十二神ねとがうさんせぐらりや志や
明王のがう海の里まんを宣川さげてあく海を
あいぢしあふは何ぞもんがくがたいしゝ海は
まんいい川君まうぞとれなしめしうすぎこ
ぎめのころものそでをくなくとくりあけてめて
君まきよりそこなりれやうなるなるぎをぬ見
を川ふせくさほなどに書侍を七八人ぎらくも
うつさぼさまころを志也もんのぶしぞもあ川
まんてあるてこそにいましめらく屋上のこふれ
ま川まへらる上らうこちハ御諸んじそなつかう

27977

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用

せうとのせんじなればくわんにんらせきくを
とりていでんとしをわけてこゝろくわまでん　やせ
をせず　くるしもせずいとゞゐかりくるはあてふりは
みりことをほうひておゐまふくわんにんこれをとれ
ふしはそうざいへだけくものげちりかのおんがく
ならんじてたゞふたにゝてぞうでんしぬまふぞこ
まはましまきのひしつまりてはなすりとん
じくぶちうしをなげらきてありくるとまり
なりしきんがくをしもごしてまつりかうちう
しどのべそきいりを京に上らうちいならんおさく
なあはおりせきゝをまいてぢがらき三段やまふかう
まうゑいらんせしくてしもせうなりとをんぐさな
あとへおりま悪着だなくぜんとりにはこち
しやのれくにつくへ羅とりにぜんといまゝうかりへ

ごとかうじ上人のしんそくをとすゝめ上がんまん
じのゑんをむすびこうめうかくりやうゐまいぢゆう
どあそんとなりそれよりおく山に入こもりして志ゆ
ふせんのこゝろざしをおこしそれにしづかにかしてしゆ
さんさうあふこけをしけつまうせんむせんてねのを
ふりまいおんさう家んでえうにわそくしんつまんとし
てけうちんかうしそせにことんかふしてしくむのゝ
ありちけいもぐれなむ仏でんをおがむべしかうず
もこしこさかりまでれう助成せざしんやうのつにけ
しやしやみつけこうもそくうちまかぶけしんと
うんもいちんやいうしちんせんのかうさいまとひ
てやや新がちくいこんつまう志ゆう志ゆしてこえ
まいかうつこさにぐうんおんまんあんしとひつまん
こんおんそうん志んそこゆうしめんふみのくまいと

くひしんかよさこいくさいの志ゝ院をかうかんてとりのかゝ
志やうかゆうゆうきあ後大小さとらやうに一筆志ん
かんのうそあかいてなかゝ深さん志んかさうゑ
月とりくわそぐんよりてくまんじん志めだゆう
のおもむきさけつしめてかゝ比しく治承三年
三月日かんぐくだうことぞよみあげまるかうりとうえ
いらんまりしくて志めせうかうとくよゑんかくさてい
じんじやりそてましりく京かや々かうり志てかん
がく上人はふせをこひやいそぎりてがう山へかへりまん
れかうがわるへしこのせんしてめんかくとてう
こゝえんけまし志りとはやせども志よゝかうのゝ
らぶつてうにそうりんやされ京あやうふあとへかへ
かのしやもんをまれとにたうく楼へまつかすくば
らうぜき者よかまあへし死罪おばくおかう

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用

いまだりりとやわがし　そんせでうぬほちにこち
おらく立がしをとなかふながむまだをとんの山若
わう殿ハなのまとこそんや志らぬんふりとにれ
清なかこ貴つぎハかふながまこなかなかちもなる
ハせんじ也せんきんまゆくがせいぐわんの御ちりひ
もうしこ海ハぞば今一家こやこへかへしたまへ
ときせいしてあしをとなかふながむまだたんだ
まをひの山こ称のごうたふのごうさがわうゆん
うげまさの屋くしまな紙をかごりわりまこまへ
くら海関山こもんまわくりてひえいさん中だう
屋くし若十二神さそまがやまの十二ぶんこんひ
ら大物七千此屋しや水野紀ちいしゆくまつり
りんぎくがけるびのをん海のざいをなぐめ清く
今一家みやこまへしあゆへときせいしてこなめ

をとなかふながむまだ屋をくこ山またりこちり此
石清水りやうおうんかいとく家ゝ川見せいを
きこんかう八まん称がたくハぎんじを海ありた
びこゆへとこせいをゆしさ殿なひつゝ志川か作り
屋多相院の御さんさうよそながらふしれがこ
ぎやうぶ左衛門なにがしがそのこうせ紀を見なか
うらにいとぐなこぐもせこあへを称んぶ川中経
をよこそのゆつまいをこゆくひくよどの法よ
つきをまばちやかふ○ようしさまそ私に海う
せてながまゆく拝んでをとなかふながむまだと
若称しらぬなこん屋の御とのせいこ中将此ま
志ろ乃たりをもにまへしかくのこちら此かりこの
えいまこくみなぐらしなれめくハ山さだせ紀ご
のみんなれかこそきんなからちひかをそぐつな

新板

もんかく　下

とりうひ志うつり此里はこまきうとよ雲のぐさはけ
こなた佛しきやまこなべよつきしうば海上をなら
ふかぢをとりをとひてのう殿まをわぎてなこ
ぢをなうまぬうまゆくんさしこそ(おかま)殺なれ

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4
ガラス使用

池角芙蓉

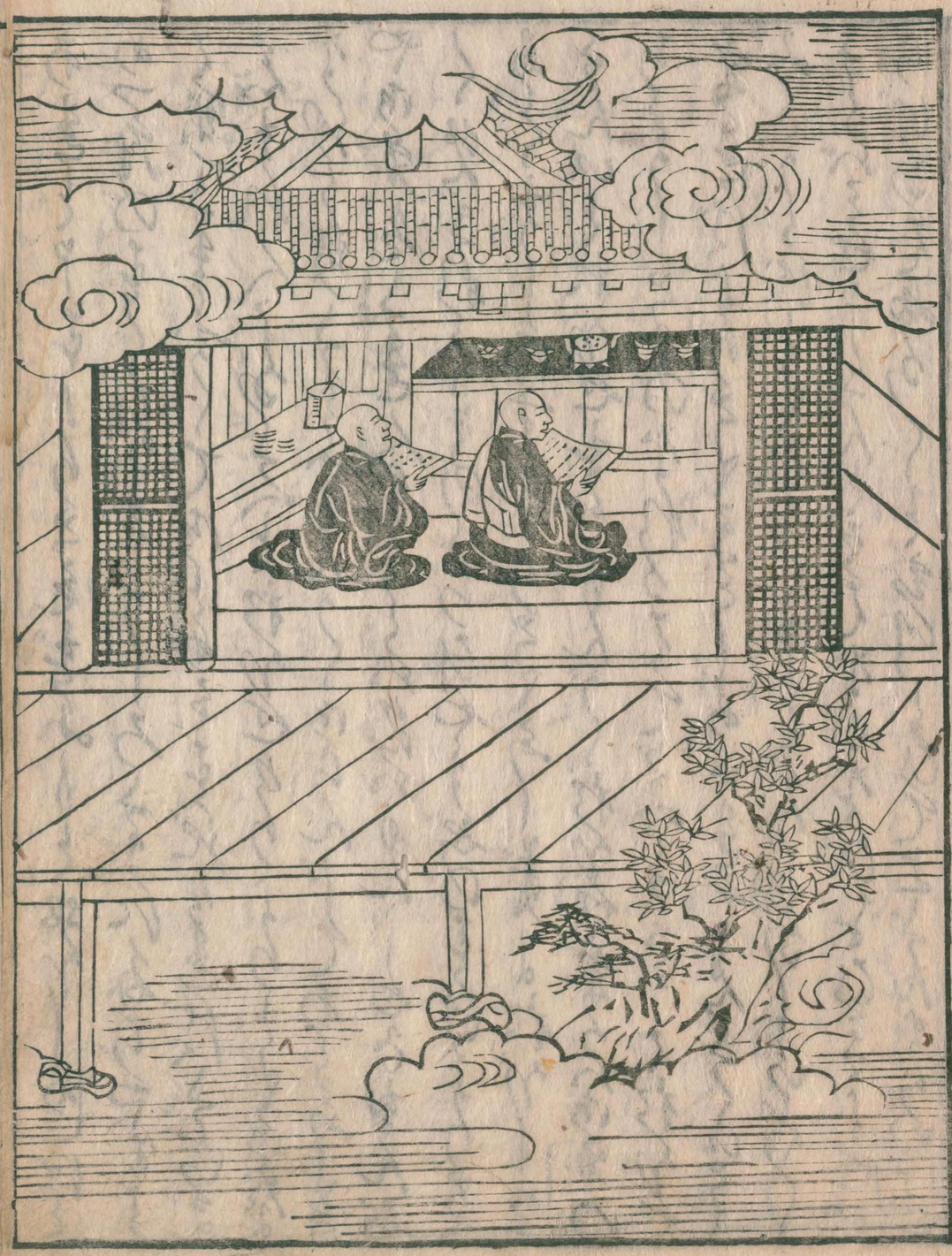
ぎんがく 下

もんがくおはせを海やうはあれどもれがんじ此世よ
なりをはかほどのざいまよりしくよりも老(ぶんとう)ますでは
あがされじをこまさも平家の屋川だらがてう
くまうりしよりしてなりこまよりいげまんれ
かし海へなん十日まをゆうだゆけぎんじを
海をかしまはしまはしまくじをとごめぶくを海
じとの給ひくふかそこにいらせたまひ海へら
ゐて立きよせうちふしなひてそのちは地
さ殿くまふまもかくゝ又祢いりた海へるもか
し如しながらおはせをるはさそこはいづくを
とゆるず天まちれおはしまもんがくまにし
給されてくいくくまてはなんかく大師(ざいし)わが朝(てう)
まてはしやうとくたいしきやじやうさいどのぶ

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4　　ガラス使用

なるに却りふくさましてまもなくまし海さ浜そらいびきし
てこそふさまし宗まし也ごのぶしがぢとりどもは
らしをみなよりをあらぶくうかあの記じつるやた
とへば記んせんなんどまそのりくなほとゆ九ろ和風
浜のなんなくはさあうよみぐらにをこそつまう雑
なふじ也此さくうなんどをあるへなまこのお賞に
てまま〳〵が死せんぞなすぞもはあのもんがくゆへ
とおがゆる也ふれぞこよりひさいぐしうこへ里ん
こいふをあつ又まき方まんせんぞまはまくらしなるぬ
もんがくなまは後いかゞはせんといふをあつ加屋うま
いろ〳〵はたしけるを記じつまへきこしめさるれた
ゆよくさうぬていをしてそらいびきしてこそぬ
されなまうりまなこしろまとも并るこうあまつ
て文学此はふりまうへをさ川とうしくぞとゆり

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用

別19
4

まんたじめときこえまり　それくちもんがく
そしらそのうしを作くら殺みれこのえんは
うさすへこくうはむかりて御申せ事御はもんがく
こそこぐいましやう難く作りまつまこしかきや
あかとおほせ事れだなりとこへくほどもな
くつまきしや二人そうりはこしうきこくうへあ
がなとみえしかばせりながあひぐにしうぎや
うれぞおんだゆしまつきたゆふ事御は人めはん
がり来はいまばもんがく空でうのまちへち
いでくかずまぶりをかひありめきおんだや
しまそのうちに三だうまぶんをつき七だう
はこかをゆひ百八十なんまぶりをいぐしをこうり
多てかずのあんぞゆうを作くりて為いけまぶ
むのとのうんかくれこやうじかのりを書しるし

文覚下十終

てうぶくまぶりをたこかゆくこ七日はまかん
ぎなとさよぐん中ぐんトぐんの百八十なんの
為いぐしがつかはもりとこぐれあひ平家のむ孫
とのうんかくれはくびきまくこやうまうれつまけ
んは多りとみえしかばへ一なうそぎゆうじゆし
うりさてだんを為ぶりていぐこ御ふうてじゆ
思ひのあきのころ為いけこやこ御ゆとされつゐ
はいくさにかくぎしてほろびをてさ殺ん為ま
ひしはもんがくまいす身どゆりこうきゆへ也
ぶ貴こえ事なり

明暦四年戌九月吉日　山田市郎兵衛開板

国立国会図書館　　タイトル『文覚 2巻』 請求記号 本別19-4

ガラス使用